

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

文武両道を目指して、知・徳・体のバランスの整った人材を育成する。国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる現代的な視野を育むと同時に、地域の核となる人間性豊かなたくましい人材を養成する。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- 探究の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、探究の意義や価値を理解するようにする。
- 地域や社会の人、もの、ことと自分自身の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、表現する力を身につける。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、持続可能な社会を実現するために行動し、国際的な視野を持ちつつ、地域連携に尽力するグローバルマインドを育成する。

総合的な探究の時間の学習評価

評価基準は左記の通り

評価方法

- テキスト・ワークシートの記述や成果物、研究レポートの内容、発表等を対象に、ルーブリックを用いて各評価の観点の到達度をはかる。
- 学年末に授業全体のルーブリックに照らして、評価文言を決定する。

生徒の実態

- ・素直で従順であるが、主体性に欠ける。
- ・社会への関心が薄く、問題意識が低い。
- ・コミュニケーション能力が低く、人の意見に左右されやすい。
- ・協働する機会が少ない。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・チームでの対応
- ・生徒の多様性への対応

教科横断的に活動を実施し、より多くの教員が関わることで情報共有・共通理解を図る。また、ペア・グループワークを通じた協働的探究活動を通し、生徒相互でのサポート体制が構築できるよう努める。

目指す生徒の姿

- ・地域の課題に目を向けることを通して、社会への関心を持つようになる。
- ・「自分にできることは何か」を意識することによって、主体的にものごとを捉えることができる。
- ・自分、他者がよりよく生きるために意欲的に協働する態度を作り、社会貢献する意識を向上させる。
- ・シチズンシップの在り方を理解し、より良い地域づくり・まちづくりへの積極的参加、社会参画を目指す。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

- 1年** ○プレ探究
探究活動の意義や価値を理解し、地域の課題について考えることができる。
- 地域探究
一連の探究活動を通して地域の課題を発見する態度と地域の核となる人材を育成する。地域という実生活と自己との関わりから問いを見出し、課題を立てることができる。周囲と相互に助言と評価を行い協働の姿勢を学ぶ。さらに、プレゼンの方法を習得し、発表を傾聴する態度を育む。
- 2年** ○社会理解
問題について様々な視点から眺め、多面的かつ客観性のある考えを導く。他者の意見を傾聴し、物事の見え方や捉え方を広げ、自分自身について見つめ直す。
- キャリア探究
将来の職業選択を視野に入れ、大学(専門学校)・学部・学科・専攻等の内容や特色を研究する。自己の将来像を描き、職種や企業の仕事内容や特色を研究する。
- 3年** ○進路探究
自分の進路について考え、希望進路先について情報収集する。志望理由書を書く練習を通して自分のやりたいこと、将来の展望について整理する。
- 時事問題
時事問題について情報収集し、自分の興味のある問題について深く考察し、多面的な視点から一つの問題を考える。

学習活動、指導方法等

- ・探究学習に取り組む目標や到達目標、学習のスケジュールの確認
- ・テキストやワークシートを使用し、情報収集・分析スキルやシンキングツールの知識を学ぶ。導入や指示は系統をまとめ、演習はグループ学習で進める。
- ・教科横断的な活動を実施し、課題探究や小論文などに活かす(添削指導など)。
- ・キャリア研究を取り入れ、生徒の興味のある分野の探究をする。
- ・学習したシンキングツールを用いて地域の課題をグループごとに挙げ、生徒達が自分で掘り下げたいテーマを選択する。
- ・地域で働く卒業生、市役所、大学の方による講演会などを組み入れる。
- ・SDGsの視点と関連付けて、地域の課題の解決策を考えていくよう指導する。
- ・修学旅行等の学校行事を活用し、地域や歴史、国際情勢など、生徒の興味をさらに深掘りできるよう支援する。
- ・成果発表会を開き、他者に伝える表現スキルを向上させる。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

指導体制

総合的な探究の時間運営委員会（校長・教頭・教務主任・進路指導主事・各学年主任・学年担当教員で組織）を開き、定期的に授業担当者からのフィードバックを受け、適宜内容や評価等の改善に取り組む。

連携

大学や地域（市役所、市議会、社会福祉協議会、青年会議所、保育園等）企業と連携し、講話や話を伺う会などを企画。地域のイベントやボランティアなどに積極的に参加する。

学校行事（交通安全講話、薬物講話、情報リテラシー向上研修）の活用

環境整備

校内情報インフラの整備